

諏訪の景気動向

平成24年 11月

(平成24年 10月末 D・I調査)

平成24年 11月26日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏 訪 信 用 金 庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 24 年 10 月末）

「平成 24 年 10 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 172 社のご協力を得て行った平成 24 年 10 月末の「景気動向調査 (DI調査)」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 32.6$ となり、やや改善傾向が見られた前回調査時(平成 24 年 7 月末、以下同)の 0.6 から 33.2 ポイントの急激な悪化となった。製造業の業況判断DIは $\Delta 42.9$ と前回調査時の $\Delta 5.5$ から 37.4 ポイント悪化した。非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIも $\Delta 4.3$ と前回調査時の 21.0 から 25.3 ポイント悪化した。「3 ヶ月後」の業況予想DIは、製造業が $\Delta 34.9$ (前回調査時 $\Delta 14.2$)、非製造業が $\Delta 36.9$ (前回調査時 5.3)と厳しい数値となっている。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業 8.7%、「悪化」企業 51.6%で $\Delta 42.9$ と前回調査時から大幅に悪化した。また、「前年同期」と比べた業況判断DIは $\Delta 43.6$ で、「好転」企業が 13.5%、「悪化」企業は 57.1%となった。「3 ヶ月後」の受注予想DIは、「増加」企業 11.3%、「減少」企業 48.4%で $\Delta 37.1$ と、前回調査時の $\Delta 12.0$ から 25.1 ポイント悪化した。業種別の「3 ヶ月前」と比べた受注状況DIでは、前回改善傾向だった「輸送用機械」が $\Delta 46.7$ (前回 $\Delta 6.2$)、「金属製品」は $\Delta 41.7$ (同 $\Delta 6.6$)と落ち込み、「電気機械」 $\Delta 66.7$ 、「一般機械」 $\Delta 45.1$ 、「精密機械」 $\Delta 25.0$ といずれも大幅悪化した。

ヒアリング調査では、多くの業種で受注減少企業が増加し、受注の量や内容にもばらつきがあって不安定な上、単価引き下げ要求も続いている。世界経済の減速や日中関係の悪化などの影響による親企業の生産計画修正で減産予告を受けている企業もある。今後の景気後退を予測して、工場改築計画を白紙に戻したり、減少した事業規模に見合う体制づくりに向け、不稼動設備の売却やリストラを予定したり、平日休業体制を取っている企業もある。一部には「リーマンショック時より厳しさを感じる」という声もあった。

商業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「横這い」の企業が 64.3%と前回調査時(77.8%)よりやや減少し、「悪化」企業が 11.1%から 28.6%と増加して同DIは $\Delta 21.5$ となった。天候の影響で衣料や食料などで秋冬物用品の出足が鈍かったが、10 月後半の冷え込みで持ち直した。岡谷市では大型店の閉店があり、周辺にやや影響を及ぼした。自動車販売は、諏訪地方の 10 月の車庫証明件数(軽自動車除く)が 969 台と、前年同月比では 20 台増加(2.1%)したが、前月比では 40 台の減少($\Delta 4.0\%$)となった。エコカー補助金終了で顧客の反応が鈍っている。「3 ヶ月後」の業況判断DIは「好転」を予想する企業がなく、「横這い」が 71.4%で同DIは $\Delta 28.6$ と、前回調査時($\Delta 22.2$)よりマイナス幅が広がった。

観光・サービス業は、「3 ヶ月前」と比べた業況判断DIは 0.0 で、大幅改善した前回調査時と同水準となった。「前年同期」と比べた業況判断DIでは、16.6 と前回調査時の $\Delta 17.6$ から 34.2 ポイント改善した。10 月には全国産業観光フォーラムや長野技能五輪などの全国的イベントがあり、それに合わせた体験ツアーやラーメン合戦、技能体験などの共催イベントに集客効果が見られた。諏訪湖周辺のホテル、旅館の宿泊客数は施設によって増減区々で、高山植物のシーズンが終盤になった高原の観光施設の入り込み客数は、前月比でやや減少傾向の所が多い。「3 ヶ月前」と比べた稼働率DIは 0.0 と、大幅増となった前回調査時と変わらない

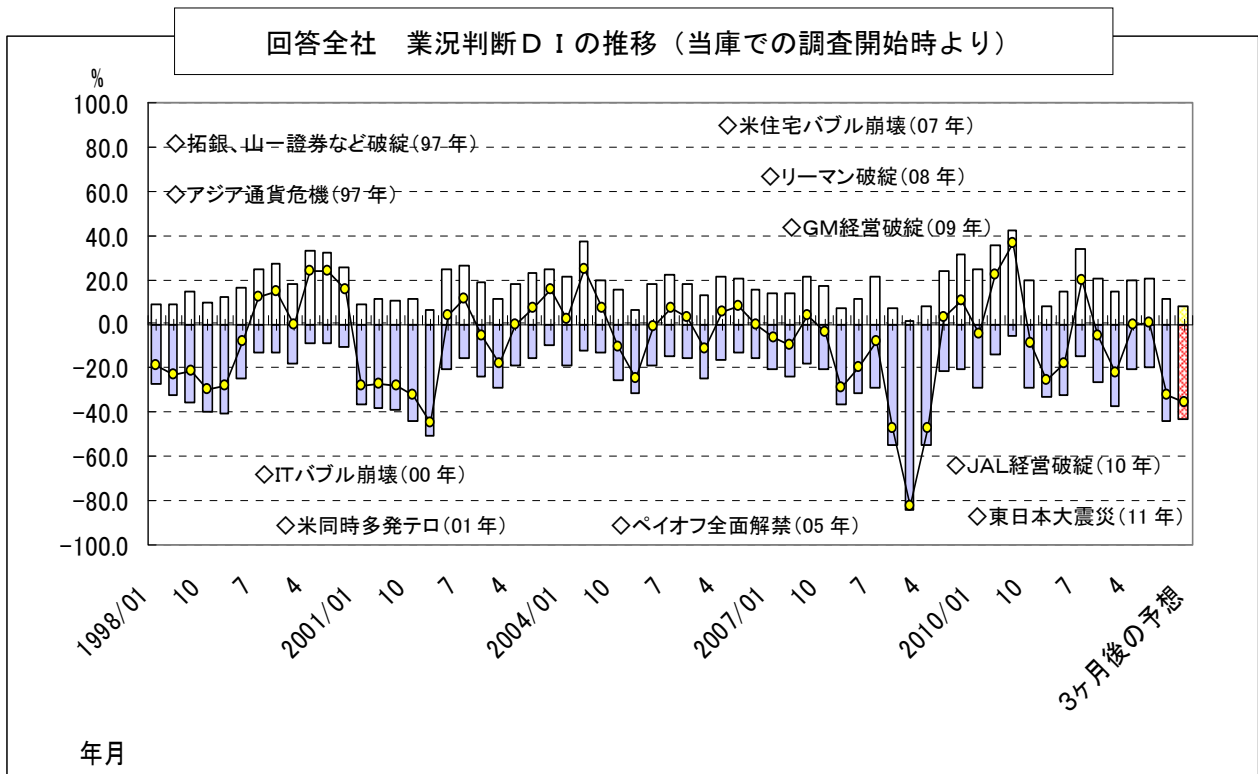
が、冬季に向かう「3ヵ月後」の業況予想DIは△55.5となっている。

建設業の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、7.2と前回調査時の0.0からやや改善した。「横這い」企業が78.6%と多いが、「好転」企業が14.3%、「悪化」企業が7.1%となっている。ただ、受注状況DIは「3ヶ月前」と比べて△21.5、「前年同期比」で△28.6となっており、「3ヶ月後」も△15.4と依然厳しい状況が続いている。

諏訪地方の平成24年9月の新設住宅着工戸数は88戸と、前年同月の133戸に比べ45戸(△33.8%)の減少となった。利用関係別では貸家が増加し、分譲が減少した。また、平成24年4月～平成24年9月の累計着工戸数は522戸で、前年同期累計比では127戸(△19.6%)の減少となった。

10月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は17件131百万円で、4月～10月の累計は2,446百万円となり前年同期累計比4.2%増となった。市町村の10月の発注工事は建築工事8件、土木及び下水道工事94件、その他工事20件の合計122件714百万円だった。

雇用状況は、平成24年9月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月、前月ともに同率の0.81倍となった。長野県の同倍率は0.80倍、全国の同倍率は0.81倍で、前月に続いて県や国とほぼ同水準となっている。新規求人数(全数)は1,365人で前年同月比68人(5.2%)の増加、新規求職者数は1,006人で前年同月比64人(△6.0%)の減少となっている。産業別の前年同月比の新規求人数は、その他サービス業が44.6%、建設業が43.5%とそれぞれ増加したが、運輸業で51.9%、製造業では17.7%減少した。また、1件10人以上の人員整理は0件で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は65人と前年同月より5人増加、前月より85人減少した。



業況判断DIの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社(172社)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業が11.6%、「横這」企業が44.2%、「悪化」企業が44.2%で同DIは△32.6と、前回調査時の0.6から33.2ポイントの大幅悪化となった。リーマンショックの影響を受けていた平成21年4月調査時(△47.1)に次ぐ水準で、やや改善傾向が見られた前回から急激な悪化となり、諏訪地域でも世界経済の減速や日中関係悪化などの影響が出ている。

製造業の業況判断DIは「好転」企業8.7%、「悪化」企業51.6%で△42.9と、前回調査時の△5.5から37.4ポイントマイナス幅が拡大した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の業況判断DIは△4.3と前回調査時の21.0から悪化した。

産業別業況表

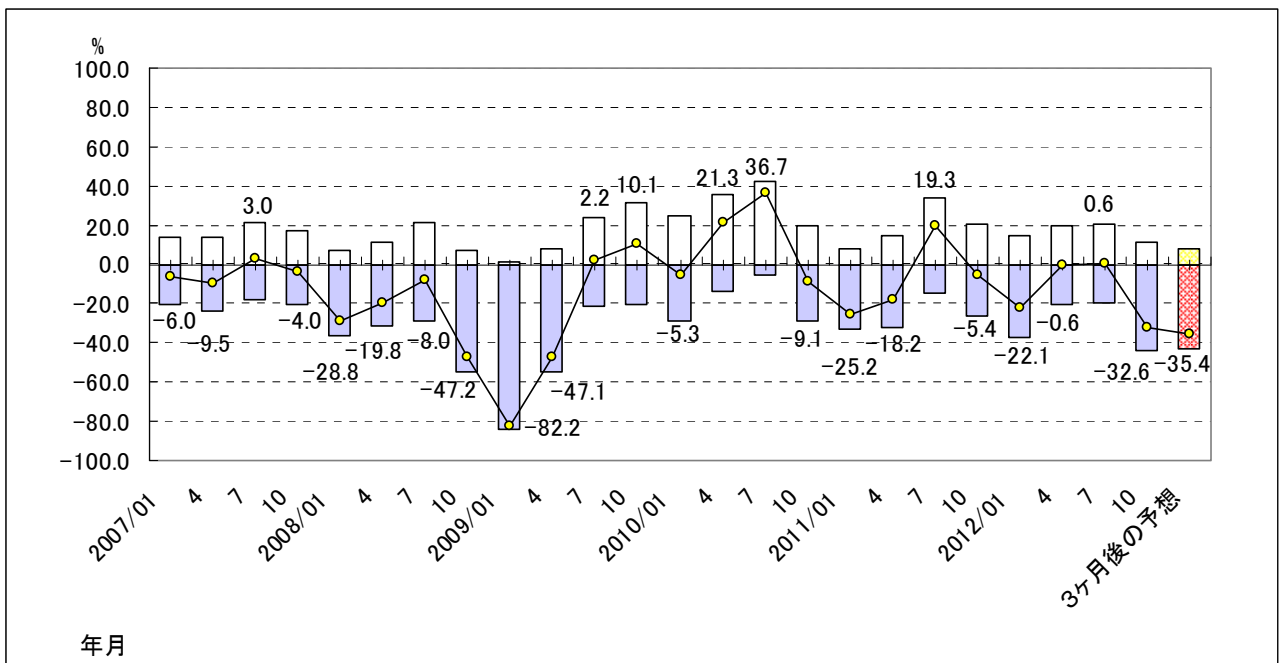
(企業数・%) 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	172	11.6	44.2	44.2	-32.6	172	16.3	34.3	49.4	-33.1	172	7.6	49.4	43.0	-35.4
製造業	126	8.7	39.7	51.6	-42.9	126	13.5	29.4	57.1	-43.6	126	9.5	46.0	44.4	-34.9
非製造業	46	19.6	56.5	23.9	-4.3	46	23.9	47.8	28.3	-4.4	46	2.2	58.7	39.1	-36.9
商業(大型店)	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	14.3	50.0	35.7	-21.4	14	0.0	71.4	28.6	-28.6
建設業	14	14.3	78.6	7.1	7.2	14	21.4	42.9	35.7	-14.3	14	0.0	78.6	21.4	-21.4
観光・サービス	18	33.3	33.3	33.3	0.0	18	33.3	50.0	16.7	16.6	18	5.6	33.3	61.1	-55.5

自社業況判断DIの推移

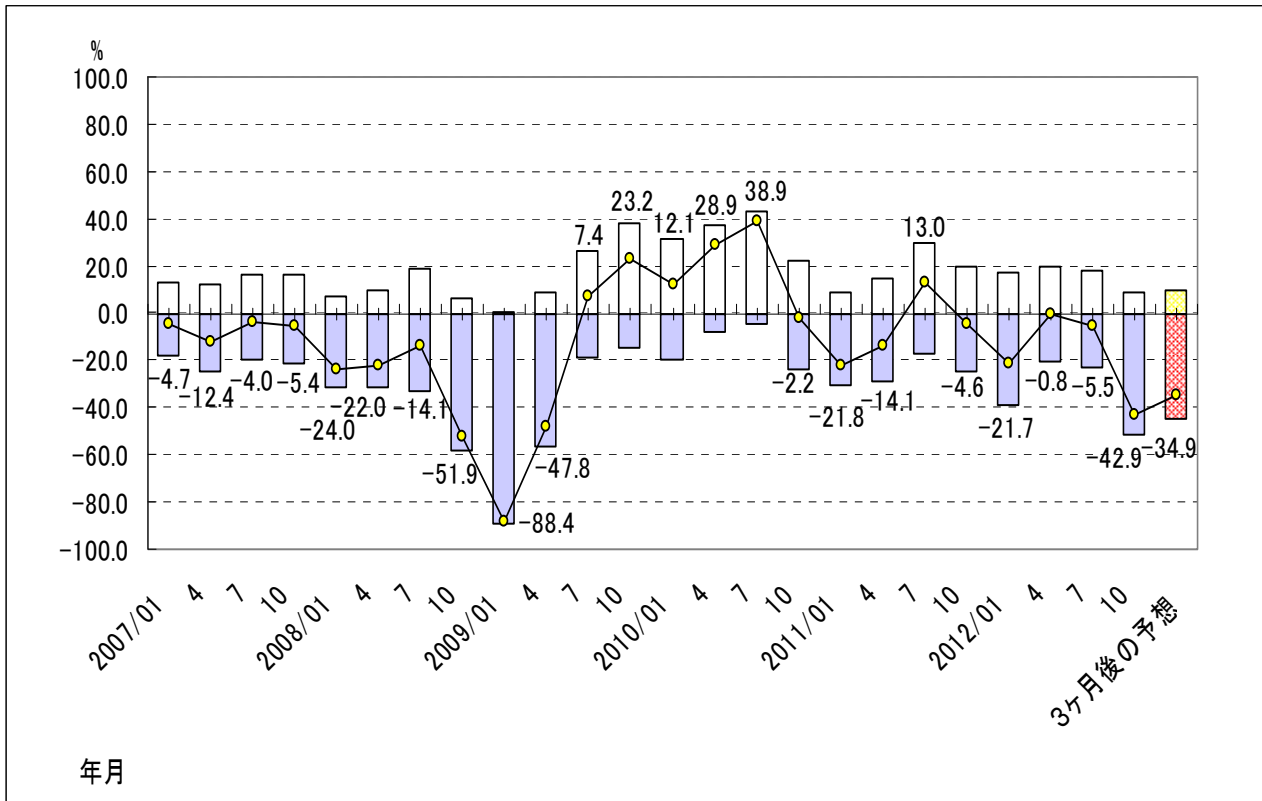
● 回答全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-1



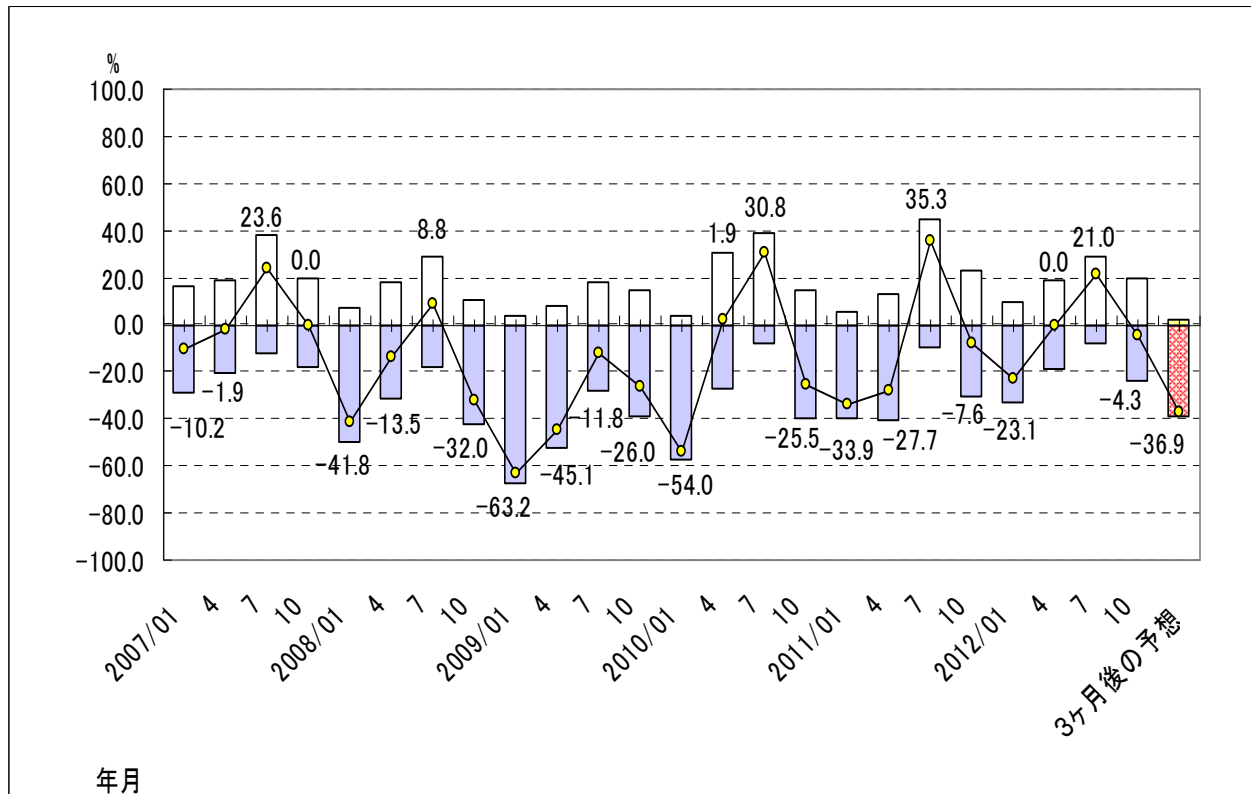
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは「好転」企業8.7%、「悪化」企業51.6%で同DIは△42.9と、前回調査時の△5.5から37.4ポイント悪化した。「前年同期」と比べた業況判断DIは△43.6で、前回調査時の△2.4から41.2ポイント悪化している。「3ヶ月後」の業況予想DIは△34.9で、「好転」企業9.5%に対して、「悪化」企業が44.4%となり、前回調査時の△14.2から20.7ポイント悪化した。

収益性DIは「3ヶ月前」との比較では△42.1と前回調査時の△14.2からマイナス幅が拡大した。「3ヶ月後」の収益性予想DIも△39.6で、前回(△17.4)より拡大している。

受注状況DIは「3ヶ月前」と比べて△43.5と、前回調査時の△4.0から39.5ポイント悪化した。「3ヶ月後」の受注予想DIでは「増加」企業11.3%、「減少」企業48.4%で同DIは△37.1と、前回調査時の△12.0から悪化している。

規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「1～29人企業」は△47.0、「30～99人企業」が△46.0、「100人以上企業」は△26.1となった。前年同期比でも全ての規模で大幅悪化し、「3ヶ月後」の予想DIは規模が小さくなるほど、厳しい予想となっている。

業種別(主要5業種)の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIでは、前回プラスだった「一般機械」は△29.0、「精密機械」は△25.0で水面下となり、全業種が大幅な悪化となった。「輸送用機械」の自動車部品は加工内容にもよるが、受注が減少している企業が多い。「3ヶ月後」の業況予想DIも「好転」を見込む企業がない業種もあり、一層の厳しさをうかがわせている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
製造業		126	8.7	39.7	51.6	-42.9	126	13.5	29.4	57.1	-43.6	126	9.5	46.0	44.4	-34.9
規模	1～29人	66	9.1	34.8	56.1	-47.0	66	9.1	31.8	59.1	-50.0	66	1.5	50.0	48.5	-47.0
	30～99人	37	10.8	32.4	56.8	-46.0	37	18.9	21.6	59.5	-40.6	37	18.9	35.1	45.9	-27.0
	100人～	23	4.3	65.2	30.4	-26.1	23	17.4	34.8	47.8	-30.4	23	17.4	52.2	30.4	-13.0
中分類	金属製品製造業	13	0.0	38.5	61.5	-61.5	13	7.7	23.1	69.2	-61.5	13	0.0	38.5	61.5	-61.5
	一般機械器具製造業	31	12.9	45.2	41.9	-29.0	31	19.4	32.3	48.4	-29.0	31	6.5	41.9	51.6	-45.1
	電気機械器具製造業	25	4.0	24.0	72.0	-68.0	25	20.0	8.0	72.0	-52.0	25	20.0	56.0	24.0	-4.0
	輸送用機械器具製造業	15	6.7	33.3	60.0	-53.3	15	0.0	33.3	66.7	-66.7	15	0.0	53.3	46.7	-46.7
	精密機械器具製造業	12	16.7	41.7	41.7	-25.0	12	25.0	50.0	25.0	0.0	12	0.0	58.3	41.7	-41.7

① 諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 61.5$ で「好転」した企業がなく、前回調査時の $\Delta 13.4$ から 48.1 ポイント悪化した。「前年同期比」の業況判断DIも同様な数値で、「3ヶ月後」の業況予想DIでも「好転」予想の企業がなく、 $\Delta 61.5$ となっている。自動車部品関連で一部堅調な企業がある一方で、中国の反日運動の影響による親企業の生産停止や減産で受注が減少した企業もある。

● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

前は「好転」企業が「悪化」企業を上回ったが、「3ヶ月前」と比べた今回の業況判断DIは $\Delta 29.0$ で、「好転」企業12.9%に対し、「悪化」企業は41.9%となった。「前年同期比」の業況判断DIでも「悪化」企業が多く同DIは $\Delta 29.0$ となり、「3ヶ月後」の予想DIは $\Delta 45.1$ で、「好転」企業6.5%、「悪化」企業51.6%となっている。米国向けは動くが、中国、欧州向けは低調で回復の見込みも不透明となっている。

● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 68.0$ と、前回調査時の $\Delta 15.4$ から大幅悪化した。「前年同期」比でも $\Delta 52.0$ となっている。「3ヶ月後」の業況予想DIは $\Delta 4.0$ で、「横這い」の企業割合が多く、「好転」企業は20.0%、「悪化」企業は24.0%となっている。親会社の生産、在庫調整で受注が減少したり、中国情勢で受注がキャンセルになった企業があり、平日休業体制を取る企業もある。

● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは $\Delta 53.3$ で、前回調査時の $\Delta 25.0$ から悪化した。前は「横這い」企業が75.0%を占めていたが、今回は「好転」企業が6.7%で、「悪化」企業が60.0%と増えている。「前年同期比」の業況判断DIは $\Delta 66.7$ で、「3ヶ月後」の業況予想DIは $\Delta 46.7$ となり、「好転」予想の企業がなく、「横這い」企業が53.3%だった。自動車部品は全体的に減少傾向となっている。

● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業が16.7%、「悪化」企業が41.7%で $\Delta 25.0$ となった。前回調査時の10.0から悪化し、マイナス状況となっている。「前年同期比」の業況判断DIは0.0と横這いだが、「3ヶ月後」の業況予想DIは好転予想の企業がなく、 $\Delta 41.7$ と厳しい見方が多い。海外情勢などによる親企業の生産調整の影響がある。

② 規模別業況

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「1～29人」規模が $\Delta 47.0$ 、「30～99人」規模が $\Delta 46.0$ 、「100人以上」規模が $\Delta 26.1$ だった。「前年同期比」は「1～29人」規模が $\Delta 50.0$ 、「30～99人」規模が $\Delta 40.6$ 、「100人以上」規模が $\Delta 30.4$ だった。「3ヶ月後」の業況予想DIは、「1～29人」規模は $\Delta 47.0$ 、「30～99人」規模が27.0、「100人以上」規模は $\Delta 13.0$ と全体的に悪化予想で、規模が小さくなるほど厳しくなっている。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は「増加」企業 9.7%、「減少」企業 53.2%で同DIは△43.5と、前回調査時の△4.0から大幅に悪化した。「前年同期比」でも△45.2となった。「3ヶ月後」の受注予想DIは△37.1で「増加」企業 11.3%、「減少」企業 48.4%と、前回の△12.0からマイナス幅が拡大した。

規模別の受注状況DIは、「3ヶ月前」と比べて「1～29人企業」は△47.7で、前回調査時の△17.8から悪化した。「30～99人」企業は△48.7と前回の23.0のプラスから大幅にマイナスへ悪化した。「100人以上」も△22.8で前回調査時の△12.0から悪化と、全ての規模で悪化した。

また、「前年同期比」の同DIでは「1～29人」が△52.3で前回の△17.7から悪化し、前回は15.4と改善した「30～99人」は△46.0と再び大幅に悪化し、「100人以上」でも△22.7と前回の△12.0から悪化している。一方、「3ヶ月後」の受注予想では「100人以上」が0.0だが、「1～29人企業」は△55.4、「30～99人」は△27.0と、悪化幅が広がると見る企業が多い。

業種別(主要5業種)では、「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは、前回13.3とプラスに転じた「一般機械」が△45.1で5業種中最も悪化し、前回マイナス幅が縮小した「金属製品」は△6.6から△41.7、「輸送用機械」は△6.2から△46.7と、それぞれ再びマイナス幅が拡大した。また、「電気機械」は△19.2から△66.7と悪化し、0.0だった「精密機械」も△25.0とへ悪化した。

「前年同期比」のDIでは、前回プラスだった「一般機械」が23.3から△35.5、「精密機械」は20.0から△16.6、「輸送機械」が12.5から△60.0と大幅に悪化した。また、「金属製品」も△58.4、「電気機械」は△50.0と悪化した。「3ヶ月後」の予想DIは、「電気機械」が0.0だが、「金属製品」は△58.4、「精密機械」は△58.3、「一般機械」が△51.6、「輸送機械」は△46.7、と前回調査時より悪化を予想する企業が大幅に増えている。

業種別・規模別受注状況表

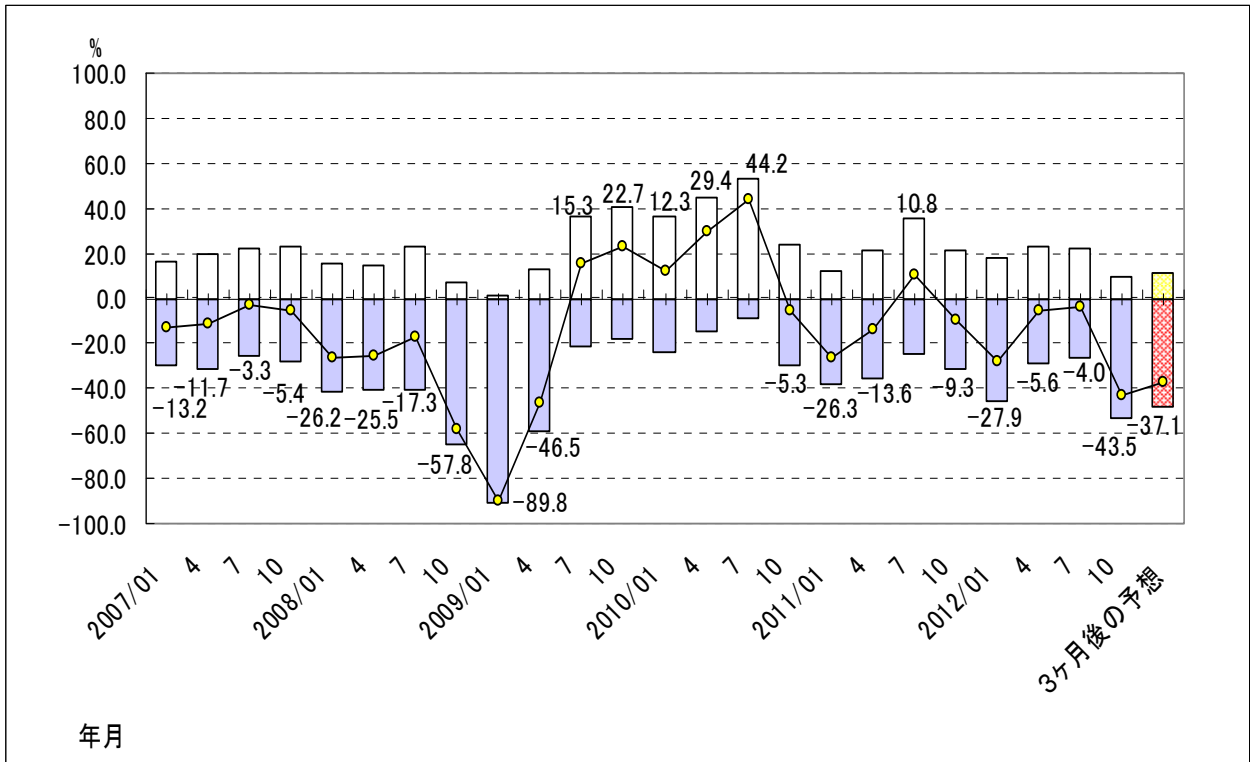
表-3

		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
製造業		124	9.7	37.1	53.2	-43.5	124	12.9	29.0	58.1	-45.2	124	11.3	40.3	48.4	-37.1
規模	1～29人	65	10.8	30.8	58.5	-47.7	65	10.8	26.2	63.1	-52.3	65	1.5	41.5	56.9	-55.4
	30～99人	37	5.4	40.5	54.1	-48.7	37	13.5	27.0	59.5	-46.0	37	21.6	29.7	48.6	-27.0
	100人～	22	13.6	50.0	36.4	-22.8	22	18.2	40.9	40.9	-22.7	22	22.7	54.5	22.7	0.0
中分類	金属製品製造業	12	8.3	41.7	50.0	-41.7	12	8.3	25.0	66.7	-58.4	12	8.3	25.0	66.7	-58.4
	一般機械器具製造業	31	6.5	41.9	51.6	-45.1	31	12.9	38.7	48.4	-35.5	31	6.5	35.5	58.1	-51.6
	電気機械器具製造業	24	8.3	16.7	75.0	-66.7	24	20.8	8.3	70.8	-50.0	24	25.0	50.0	25.0	0.0
	輸送用機械器具製造業	15	13.3	26.7	60.0	-46.7	15	13.3	13.3	73.3	-60.0	15	0.0	53.3	46.7	-46.7
	精密機械器具製造業	12	16.7	41.7	41.7	-25.0	12	16.7	50.0	33.3	-16.6	12	0.0	41.7	58.3	-58.3

製造業の受注状況DIの推移

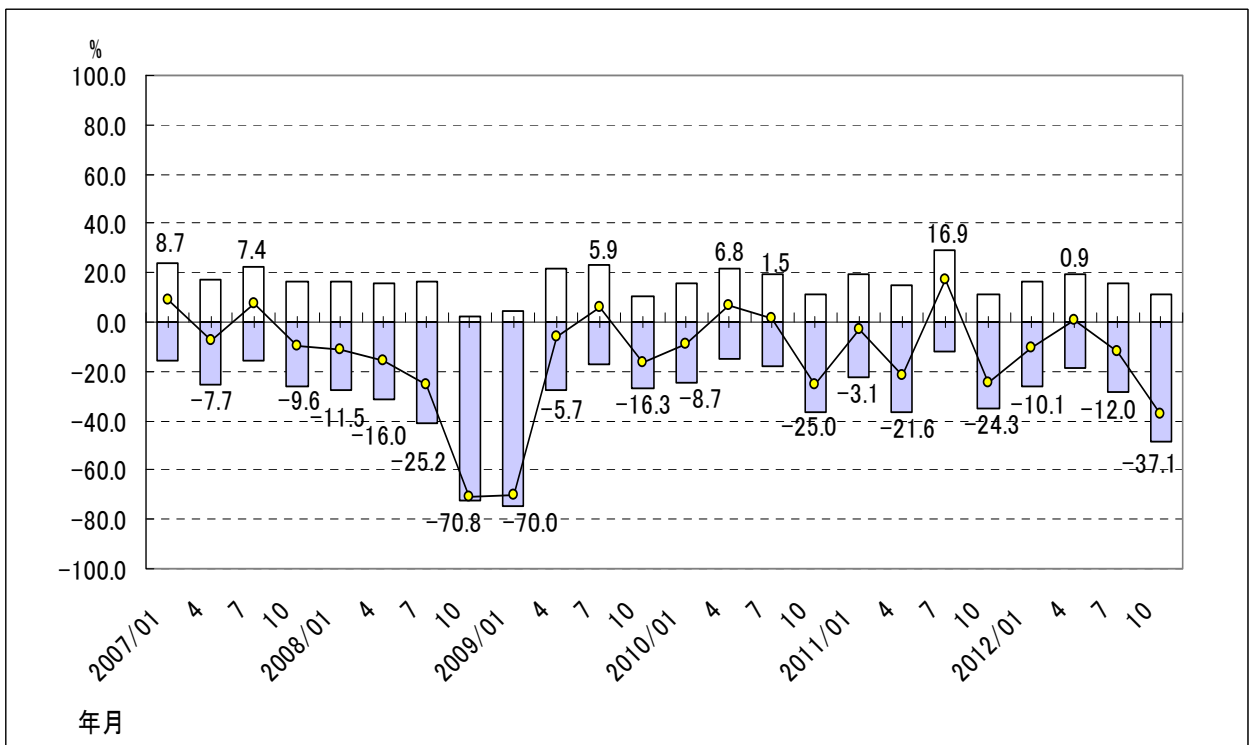
●製造業全社:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



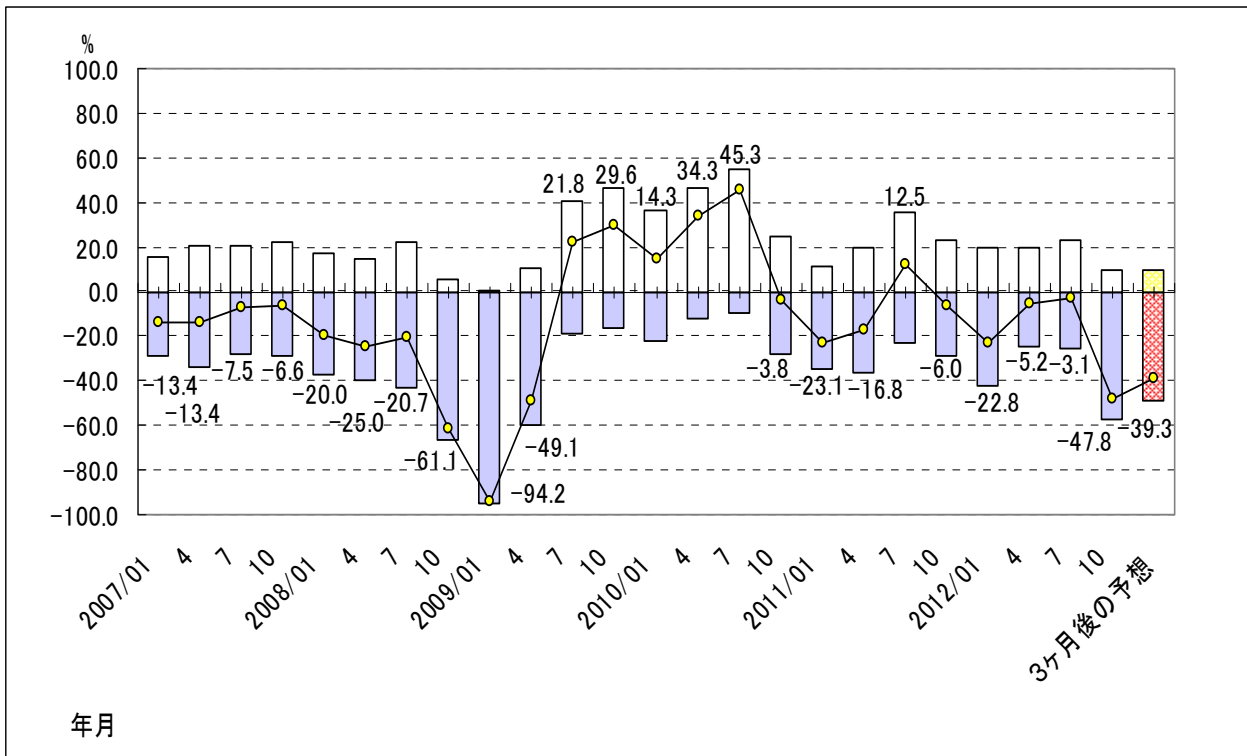
●製造業全社:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



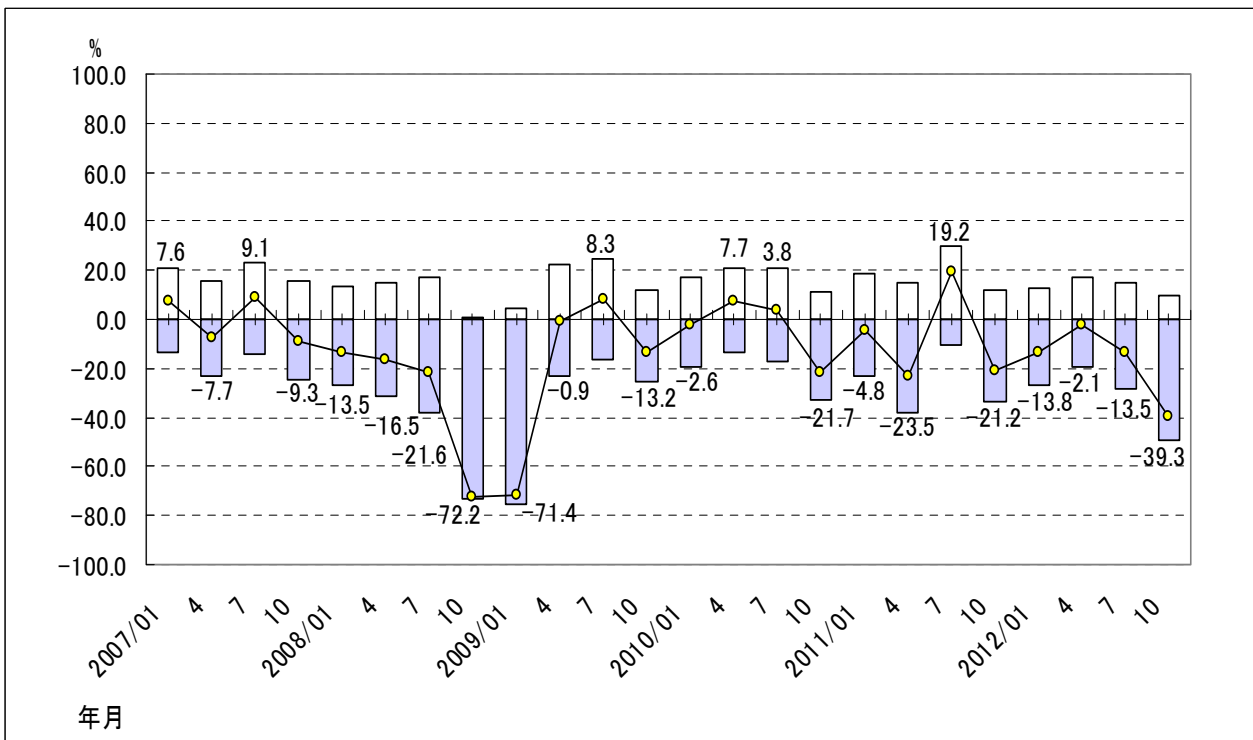
● 製造業 主要5業種:「3ヶ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



● 製造業 主要5業種:「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2.商業・観光サービス業

①商業

諏訪地方の10月の天候は、上旬の気温が高めで、中下旬からは平年を下回る日が増えた。「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは△21.5、来店客数DIは△28.6、客単価DIは△35.8、収益性DIは△28.6とマイナス状況だった。「前年同期比」の業況判断DIは△21.4で前回の△44.5より改善したが、「3ヶ月後」の業況判断DIは好転予想企業がなく△28.6となっている。節電意識が薄れ、昨年多かった湯たんぽや石油ストーブは少なく、ファンヒーターの売れ行きが伸びる傾向がある。スタッドレスタイヤの荷動きは本格化した。

- 食料品 ダイコンやナスなどの値段が下落した。前半まで気温が高く、鍋、煮物の具材が不調だったが、中旬から平年並みになった。スーパー間の競合は激しい。
- 衣料品 後半から就活用や熱保温機能のスーツの売れ行きが伸びた。
- 自動車 エコカー補助金が終了し、顧客の反応が鈍く減少傾向。軽自動車は好調。
- 家電店 テレビは低調。LED照明器具が出始めている。太陽光発電関連が好調。
- ホームセンター 寒さの始まりには豆炭の売れ行きが伸び、農作業用の袋類や折りたたみレジャーチェアの売れ行きが良かった。

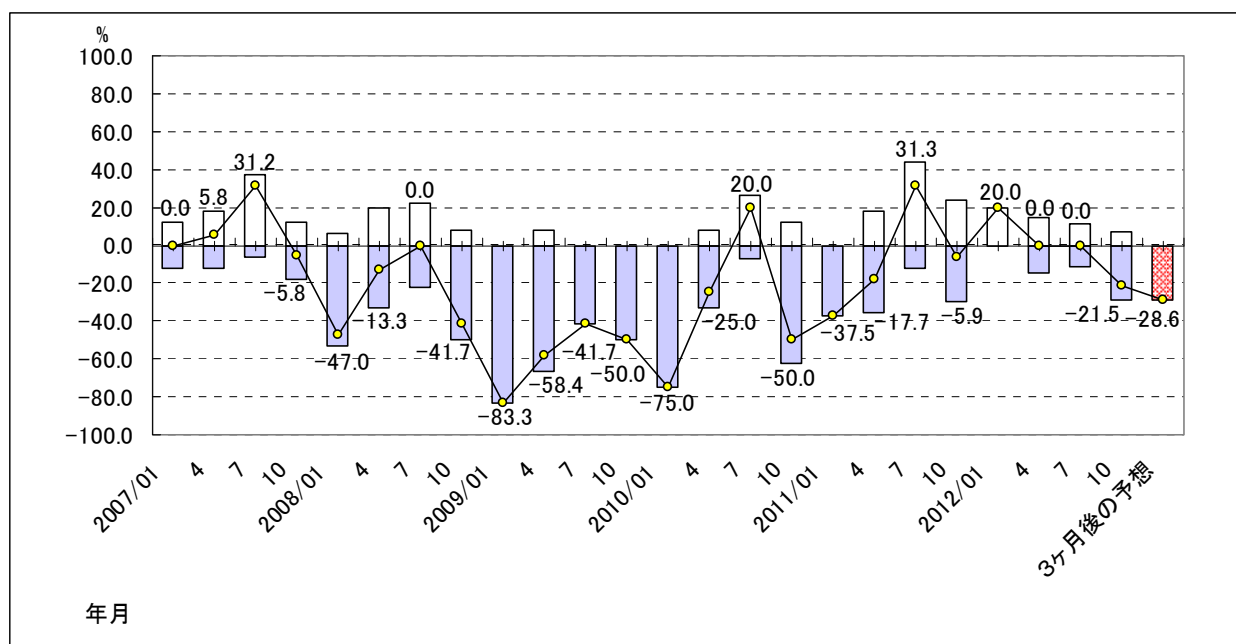
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	14.3	50.0	35.7	-21.4	14	0.0	71.4	28.6	-28.6
客単価	14	7.1	50.0	42.9	-35.8	14	0.0	57.1	42.9	-42.9	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
来店客数	14	7.1	57.1	35.7	-28.6	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	7.1	78.6	14.3	-7.2

●商業全社:「3ヶ月前」と比べて業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

「前年同期比」の業況判断DIは16.6で、前回調査時の△17.6から改善した。客単価DIは△5.5で前回の△23.5から改善し、宿泊客数も△5.5で前回の△11.8から改善している。前月比では施設によって増減区々となっている。全国的なイベントのほか、地域では地酒や料理体験ツアーなどが行われるとともに、各地で地元資源を生かした新たな観光商品開発の動きもあった。冬季に入る「3ヶ月後」の宿泊客数予想DIは△61.1、業況予想DIが△55.5、客単価予想DIは△38.9と、それぞれ減少を予想している。例年より早めにウィンターシーズンの準備を進める施設もある。

- 上諏訪温泉 震災やテレビドラマの影響で昨年秋以降が好調だった反動で、宿泊客数は全体的には苦戦しているが、技能五輪効果で満室となった施設もある。
- 蓼科・白樺湖・高山植物シーズンが終盤になり、前月比で売上減少の施設が多い。土日の天候が良かったことで富士見高原は比較的好調だった。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた10月の参拝者数は約58千人と、前年同月比約24千人の減少となった。震災の影響で参拝者が増加した前年同月より減少した。

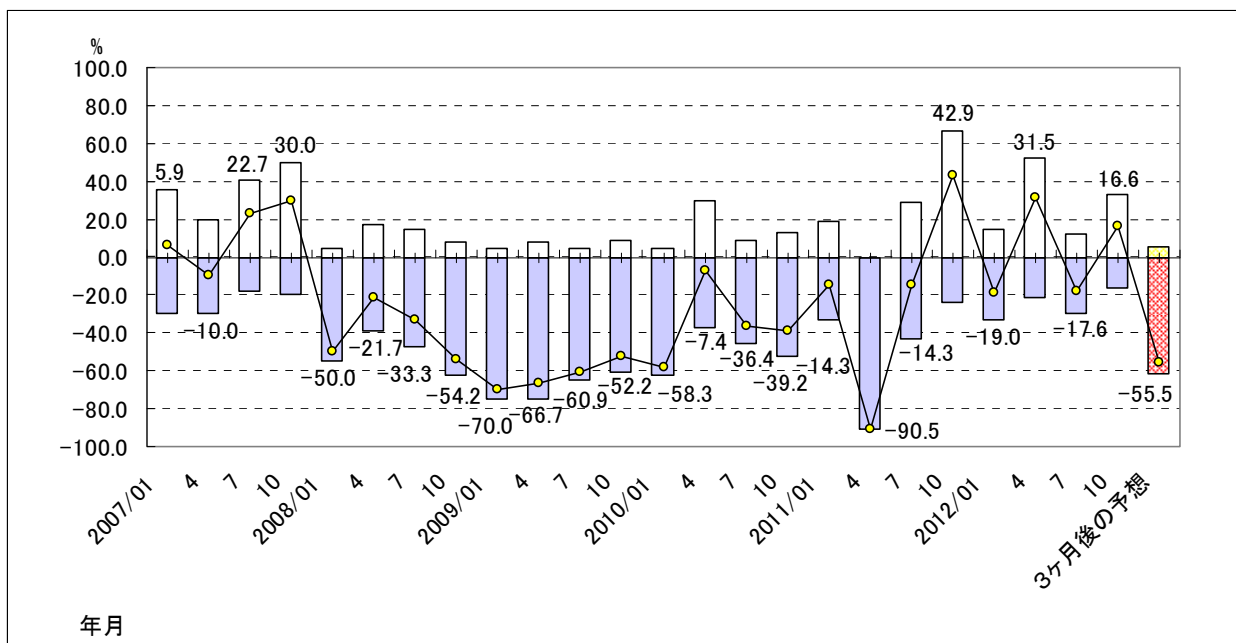
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	18	33.3	33.3	33.3	0.0	18	33.3	50.0	16.7	16.6	18	5.6	33.3	61.1	-55.5
客単価	18	16.7	50.0	33.3	-16.6	18	16.7	61.1	22.2	-5.5	18	11.1	38.9	50.0	-38.9
宿泊客数	18	22.2	27.8	50.0	-27.8	18	27.8	38.9	33.3	-5.5	18	5.6	27.8	66.7	-61.1

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

業況判断DIは「3ヶ月前」と比べて、「好転」企業が14.3%、「悪化」企業が7.1%で同DIは7.2となった。全体的に厳しい状況は続くが、前回より「悪化」企業が減少した。「前年同期比」も△14.3で前回(△25.0)よりやや改善したが、「3ヶ月後」は好転予想の企業がなく、△21.4で前回の△16.7より悪化している。「3ヶ月後」の受注状況DIは84.6%の企業が「横這い」、15.4%が「悪化」と見ている。

●建築工事

諏訪地方の平成24年9月の新設住宅着工戸数は88戸と、前年同月の133戸に比べ45戸(△33.8%)の減少となった。また、平成24年4月～9月の累計着工戸数は522戸で前年同期累計比では127戸(△19.6%)の減少となった。なお、長野県全体の平成24年9月の新設住宅着工戸数は840戸で前年同月比0.6%増と、2ヶ月ぶりに増加した。

●公共工事

10月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は諏訪建設事務所9件85百万円、林道治山工事関係6件23百万円、国関係1件16百万円、その他土木・建築工事1件6百万円だった。市町村の発注工事は建築工事8件、土木及び下水道工事94件、その他工事20件の合計122件714百万円だった。

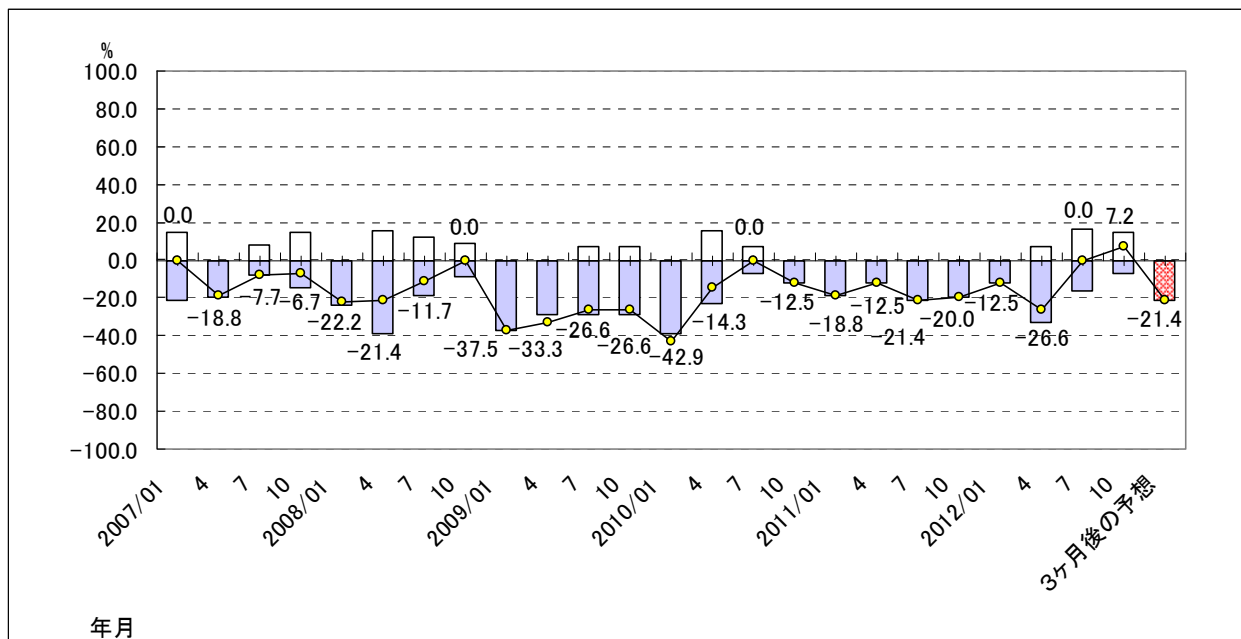
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	14	14.3	78.6	7.1	7.2	14	21.4	42.9	35.7	-14.3	14	0.0	78.6	21.4	-21.4
受注状況	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	21.4	28.6	50.0	-28.6	13	0.0	84.6	15.4	-15.4
外注発注量	14	7.1	64.3	28.6	-21.5	14	14.3	35.7	50.0	-35.7	14	0.0	71.4	28.6	-28.6

●建設業全社:「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10



4.収益性状況

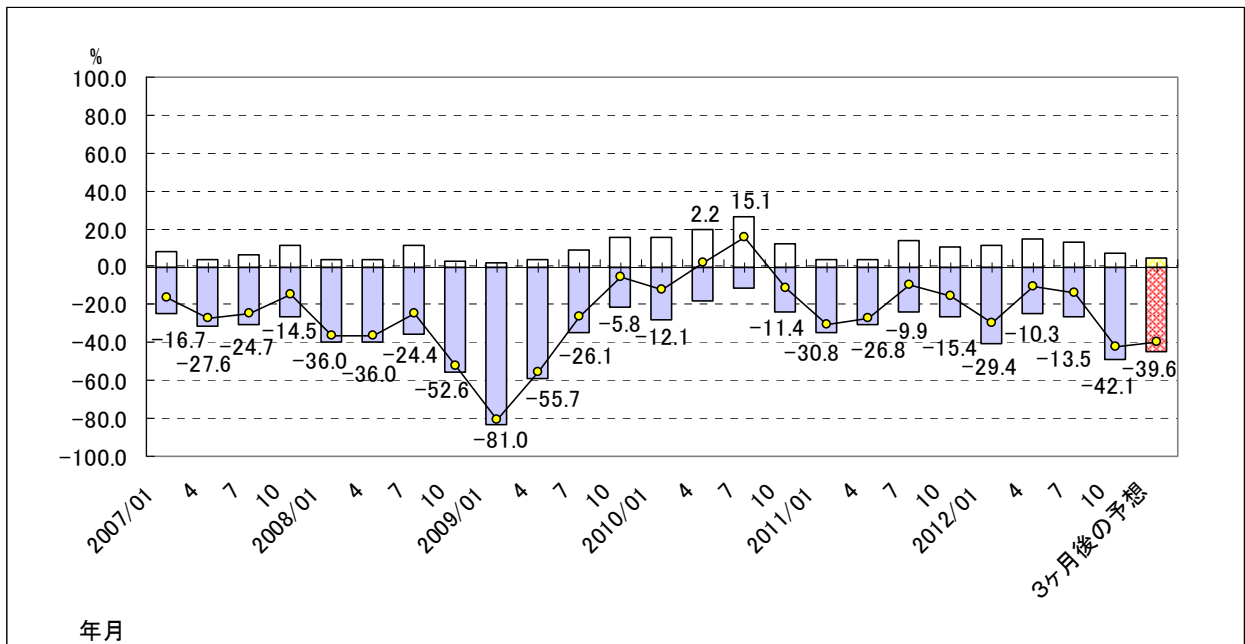
回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 9.3%、「悪化」企業 45.3%で、同DIは△36.0と前回調査時の△12.2から 23.8ポイント悪化した。

製造業の「3ヶ月前」と比べた収益性は「好転」企業 7.1%、「悪化」企業 49.2%で同DIは△42.1と前回調査時の△14.2から 27.9ポイント悪化した。また、「3ヶ月後」の収益性予想DIは△39.6で「横這い」と「悪化」の企業が 95.2%を占め、前回調査時の△17.4から悪化した。

非製造業の「3ヶ月前」と比べた同DIも△19.6と、前回調査時の△5.3から 14.3ポイント悪化した。

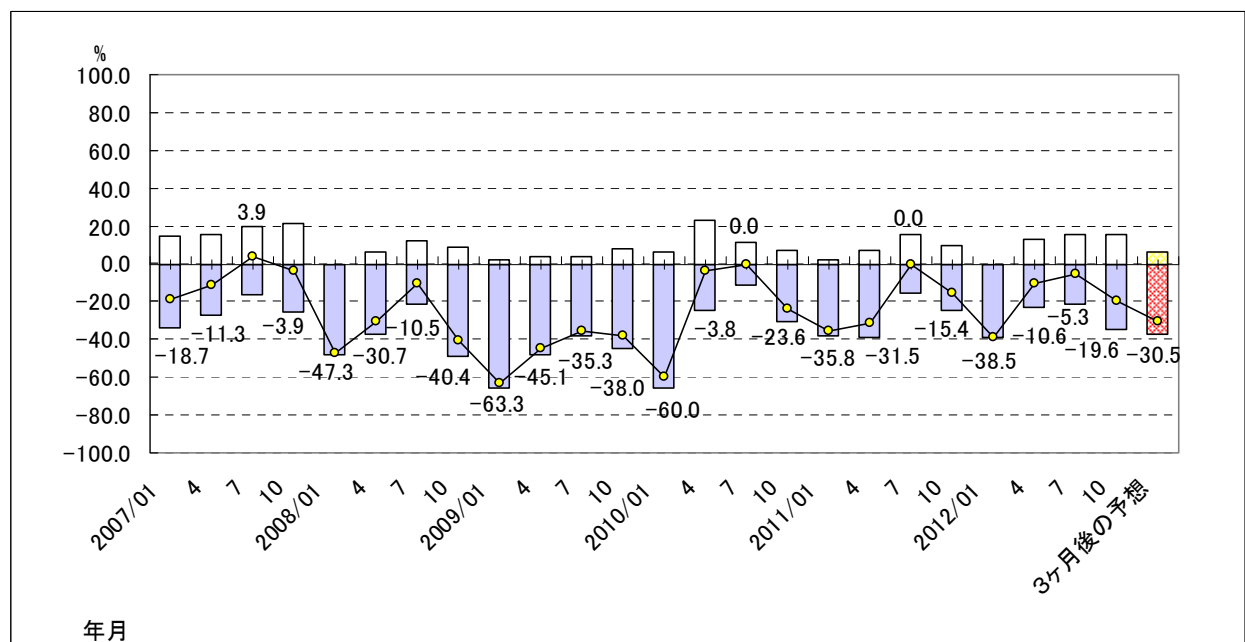
●製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業:3ヶ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少、競争激化、資金繰りをあげる企業が多く、②商業は、売上減少、競争激化、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、単価引き下げなどがあげられている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	112	85	7	8	12
単価引下げ	44	33	3	1	7
競争激化	58	37	7	8	6
資金繰り	49	36	3	4	6
人件費	36	24	5	2	5
労働力確保	12	6	2	2	2

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【9月】	ハローワーク諏訪	0.81 倍	0.00 ポイント	
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	8,625 枚	+1,362 枚	
	金額	11,976 百万円	+1,718 百万円	
	うち不渡り 発生状況	枚数	0 枚	△6 枚
	金額	0 千円	△13,685 千円	
電力使用量【10月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	37,861 MWh	△13.2 %	
	高压電力計	88,820 MWh	△5.0 %	
	合計	126,681 MWh	△7.6 %	
車庫証明取扱件数【10月】(諏訪地方合計)		969 件	+2.1 %	
新設住宅着工戸数【H24. 4~24. 9】(諏訪管内)		522 戸	△19.6 %	

7.調査概要

DI調査:業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- ①調査期間 平成 24 年 10 月末
- ②調査内容 「平成 24 年 10 月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- ③調査方法 アンケート調査(回答数 下記⑦)及びヒアリング調査(約 130 社)
- ④対象地域 諏訪地域全域
- ⑤業種 製造業、商業(大型店:売り場面積 501 m²以上)、建設業、観光・サービス業
- ⑥回答企業数 172 企業
- ⑦回答率 64.4%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	200	20	20	27	267
回答数	126	14	14	18	172